

雨が多くなる季節がやってきました。

先月新生活が始まった人は疲れが出てくる頃だと思います、皆さん体調には気を付けてください(*^_^*)

梅雨が終わるといよいよ夏の始まりですね。毎年暑くなるとニュースなど色々な場所をよく聞く熱中症ですが、わんちゃんやねこちゃんにも注意が必要です。

熱中症について

高温多湿な環境に長時間晒されることで体温が上昇し、高体温や脱水などの症状を引き起こします。

また、人間と違いわんちゃんやねこちゃんは体表に汗をかかないため、それほど高温な環境下でなかったとしても、体温を発散する機能が低下していたり、過度な運動などが原因で症状が現れる場合もあります。

重篤になると死に至ることもある危険な病気です。

熱中症の症状

熱中症を発症しているときには下記のような症状等が見られます。

初期症状

- ・元気がない、ぐったりしている
- ・食欲不振
- ・激しいパンティング(呼吸が荒い)
- ・大量のよだれ
- ・体が熱い

中程度症状

- ・嘔吐、下痢
- ・目や口の中など粘膜の充血
- ・体の震え
- ・一時的な虚脱

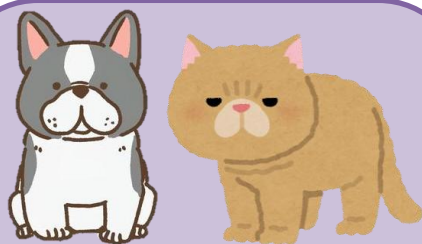
重程度症状

- ・高体温(40℃以上)
- ・ふらつき
- ・けいれん
- ・意識障害
- ・血便、血尿
- ・吐血

また、重傷の場合は、急性腎不全、播種性血管内凝固、脳障害が起こる恐れがあり、それらによる後遺症のリスクもあります。

熱中症に特に注意が必要なのは…

熱中症を発症しやすい犬種や猫種、特徴を持つ子は特に注意が必要です。



短頭種

犬ではフレンチブルドッグ、パグ、ブルドッグ、ペキニーズなど、猫ではブリティッシュショートヘアやエキゾチックショートヘアなどの鼻が潰れたような子は体温調節が苦手なため、熱中症のリスクが高いです。



足の短い犬種

コーギーやミニチュア・ダックスフンドなどの足の短い子はお散歩中や屋外にいるときに注意が必要です。地面との距離が近いいため、日中の暑くなった地面と照り返して体温が急激に高くなってしまいます。



寒冷地原産の犬種や大型犬

シベリアン・ハスキーなどの寒い地域で暮らしていた犬種は体毛が厚いために熱がこもりやすく、レトリバーなどの大型犬は肺が大きいいため熱がこもりやすく熱中症のリスクが高いです。

他にも子犬やシニア犬、肥満気味の子、心臓病や腎臓病、呼吸器疾患の持病がある子、黒色や焦げ茶などの暗い毛色の子は熱中症になりやすいので注意してください。

熱中症の時の応急処置、熱中症対策

熱中症の時の応急処置リスト

熱中症対策

① まずは涼しい居場所に移動させる

② 涼しい場所でも落ち着かなければペットボトルなどで水をかけて体を冷やす(冷やしすぎには注意)

③ 意識がある場合→少しずつ水を飲ませてみる(状態によっては誤嚥や嘔吐をしてしまうかもしれないので飲める状態なのか確認しながら行ってください)

○ 意識がない場合→保冷剤などで冷やしながらすぐに近くの病院を受診してください

○ 室内にいるときの対策

--- 冷房などを使って室温26℃、湿度50%程度を目安に保つ
--- 冷却パッドなどで涼める場所を作る
--- 水入れを数カ所に置く
--- ケージ等は直射日光の当たらない場所に移動させる

○ 屋外での対策(散歩など)

--- 早朝や夜など、日が出ていない時間帯に散歩に行く
--- 歩かせる前に地面に触れてみて熱くないか確認する
--- 適度に休憩を入れて、水分補給をする
--- クールグッズを使用する
--- 体調が良くないときは散歩を控える

保冷剤を使って体を冷やす場合は、首や脇、内股に当ててあげると効果的です。

応急処置で改善が見られたとしても内臓などにダメージを負っていて後で症状が悪化することがあります。受診する際は事前にお電話で名前、犬種、症状、到着までの時間を伝えていただくと、処置も早くできて回復率も上がります。